

船舶事故等調査報告書

平成23年1月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010門第76号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成22年3月2日 04時00分ごろ	
発生場所	宮崎県延岡市延岡港入口付近 島毛 ^{しまげぼえ} 燈標から真方位270° 2.0海里付近 (概位 北緯32° 35.3′ 東経131° 44.1′)	
事故等調査の経過	平成22年5月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 石材運搬船兼貨物船 第八^{はくちよう}白鳥丸、430トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 134673、泉海運有限会社、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構</p>	
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	船底外板擦過傷、プロペラ翼先端曲損	
事故等の経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、石灰石約1,400tを満載し、船首約3.80m、船尾約4.60mの喫水で延岡港入口に向けて西進中、平成22年3月2日04時00分ごろ、船尾船底が浅所に乗り揚げた。 その後、本船は、自力で延岡港に着岸した。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北東、風力 2 潮汐：上げ潮の中央期	
その他の事項	水路誌（九州沿岸）には、延岡港は、河口港であり流砂のため水路維持が困難であることから、300トン以上の船舶の入港は困難であり、水路幅も狭く、夜間入港は避けたほうがよい旨記載されている。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、延岡港入口付近を西進中、浅所に乗り揚げたものと考えられる。 船長は、浅所の存在を知っていたが、船位の確認を行わなかったため、ふだんより陸岸寄りを航行していることに気付かなかったものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が、延岡港入口付近を西進中、船位の確認を行わなかったため、浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。	